
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2008年4月23日号

©2008年3月油糧・食用油市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2008年3月における油糧・食用油市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

- 1 現在の気象条件は全体に有利、一部の地区では雨が多く、アブラナ菌核病が発生
2008年3月は、大部分の産地でアブラナの開花期となり、西南地区の一部では結莢が始まっているところもある。月内は大部分の産地で気温が高くて雨が少なく、日照は十分で、アブラナ栽培にとって全体に有利な気象条件であった。しかし、大雪など災害の影響もあり、アブラナの発育は平年に比べ遅れ気味となり、長江以南の一部の地区では開花期に雨が多く、アブラナ菌核病が発生しやすい状況となった。
- 2 油糧は輸出入とも増加、食用油は輸入増・輸出減
海関統計によると、2008年1～2月の油糧輸入量は前年同期比53.2%増の572.1万トンとなった。主要な内訳は大豆が同51.4%増の546.4万トンで、油糧輸入総量の95.6%を占め、菜種が同1.1倍増の19.2万トンとなった。油糧輸出量は同13.3%増の28.1万トンとなった。うち大豆輸出量は同60.1%増の12.2万トン、落花生は同15.5%元の4.5万トンとなった。
同じく食用植物油輸入量は、前年同期比7.3%増の126.3万トンとなった。うちパーム油は同0.7%減の73.2万トン、大豆油は同37.3%増の50万トン、菜種油は同59.4%減の2.1万トンとなった。輸出量は同25.9%減の3.1万トンとなった。

3 国内の主要食用油価格は下落するも、依然として高水準

2008年3月末の国内の主要食用油価格は大幅に下落したものの、依然として高水準で推移している。3月22日の山東地区の四級大豆油の工場出荷価格は1トン当たり12,000円で、前月比10.1%安、月初に比べ25.9%安となった。湖北地区の菜種の工場渡し価格は同5,200円で、前月比4.0%高、月初に比べ5.5%安となった。同じく四級菜種油の工場出荷価格は同13,400円で、前月比1.5%高、月初に比べ18.3%安となった。落花生市場は安定的に推移した。また、山東地区の二級落花生仁（種子の中の食べられる部分。殻むき落花生）の卸売価格は同8,900円で、前月比0.7%安となった。四級落花生価格は同19,500円で、前月比8.3%高、月初に比べ2.5%安となった。天津港におけるパーム油（融点24℃）価格は同9,500円で、前月比13.6%安、月初に比べ28%安となった。

4 世界の油糧需給はひっ迫、油糧・食用油の在庫消費比は引き続き低下

米国農務省（USDA）の2008年3月の予測によると、2007/08市場年度（2007年10月～2008年9月）の世界の油糧生産量は前年度比1,789万トン（4.4%）減の3.901億トンと見積もられている。うち大豆は1,738万トン減、ヒマワリ種子は251万トン減、菜種は82万トン増、落花生は70万トン増とみられている。同年度の世界の油糧圧搾量は、同1,018万トン（3.1%）増の3.411億トン、期末在庫は同1,771万トン（24.3%）と大幅減の5,523万トンと予測されている。

同じく世界の食用油生産量は、前年度比620万トン（6.2%）増の1.282億トンと予測されている。主な内訳は、パーム油生産量が4,080万トン（同378万トン増）、大豆油が3,837万トン（同212万トン）、菜種油が1,795万トン（同35万トン）、落花生油が503万トン（同22万トン増）などとなっている。食用油消費量は、同622万トン（5.1%）増の1.275億トンとみられている。前年の在庫量および貿易量などを含めて考慮すると、食用油の期末在庫量は前年度比1.4%減の876万トン、在庫消費比は1995/96年度以来最低となる6.9%と予測されている。

5 国際油糧・食用油価格は高騰の後に下落、国際菜種価格は依然国内より高水準

2008年第1四半期の南米の未精製大豆油のCNF価格（C&F価格、1990年の国際商業用語改正後はCFR価格：運賃込み価格＝FOB（本船渡し）価格＋運賃。以下同じ）、マレーシアのパーム油（融点24℃）の離岸価格（本船渡し（FOB）価格）およびカナダの菜種のCNF価格は、それぞれ前年同期比100.9%高の1トン当たり1,372ドル、102.6%高の1,188ドルおよび81.2%高の701ドルで、史上最高となった。

しかし、3月下旬になって、国際油糧・食用油価格は高騰の後、下落に転じた。3月21日のカナダの菜種CNF価格は1トン当たり695ドルで、前月比8.6%安、前年同月比79.1%高となった。同じく南米の未精製大豆油は同1,320ドルで、前月比7.7%安、前年同月比95%高となった。マレーシアのパーム油（融点24℃）FOB価格は同1,210ドルで、

前月比1.2%安、前年同月比103.4%高となった。この3商品は、月初の史上最高価格に比べ、それぞれ18.7%安、19.3%安、13.6%安となった。

内外の価格を比較すると、3月21日のCNF価格から推計して、カナダ産の輸入菜種の通関渡し価格（Duty Paid：CIF＋関税等）は、江浙（江蘇省および浙江省）地区の国産菜種の工場買取平均価格に比べ1トン当たり900元以上高かったが、南米の未精製大豆油の通関渡し価格は、山東省の大豆油の平均工場出荷価格に比べ、同200元前後安かった。